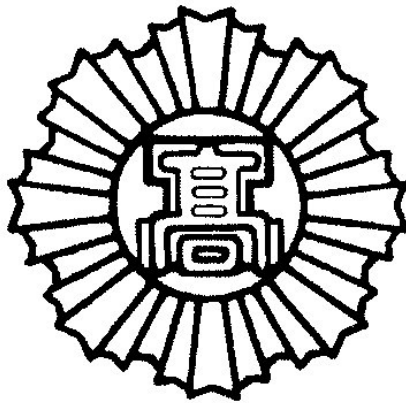


平成 28 年度
学校評価結果報告書
(年度末評価)



広島県立広島工業高等学校

目 次

- 1 様式5【平成28年度自己評価シート（年度末評価）】・・・ 1
- 2 様式6【平成28年度自己評価シート（年度末評価まとめ）】・・・ 8
- 3 様式8【平成28年度学校関係者評価シート（年度末評価）】・・・ 11

平成 28 年度自己評価シート(年度末評価)

校番	81	学校名	広島工業高等学校	校長氏名	唐立 慎二	全日制	本校
----	----	-----	----------	------	-------	-----	----

学校経営目標							
達成目標	評価指標	前年度	本年度		評価	理由	担当 部等
		実績値	目標値	実績値			
1							
計画的に資格・検定試験の案内をし、ジュニアマイスター認定者数を増やす。	認定者数	50 人	52 人	46 人	B	(教育研究部) ジュニアマイスター前期ゴールド10人、シルバー13人 計23人 後期ゴールド8人、シルバー15人 計23人 合計46人 (学年会) 学年会では年間を通して、資格・検定取得及び、ジュニアマイスター認定に係る啓発活動をした。	教育研究部 学年会
ものづくりコンテスト等全国大会での入賞を目指す。	中国大会・全国大会の出場数	中国大会 6 全国大会 4	中国大会 7 全国大会 5	中国大会 8 全国大会 7	A	(機械科) 若年者ものづくり競技会旋盤作業銅賞(3位)受賞、フライス盤作業には初出場した。高校生ものづくりコンテスト中国地区大会旋盤作業部門2位に入賞した。	工業科
					B	(電気科) 電気工事・電子回路組立の2部門に出場したが中国大会には出場できなかった。 相撲ロボット大会、マイコンカーラリー大会では地区大会を優秀な成績で、全国大会に出場した。	
					A	(建築科) 高校生ものづくりコンテスト全国大会木材加工部門で優勝した。 若年者ものづくり競技大会(職種建築大工)に出場し、銀賞(2位)を受賞した。	
					B	(土木科) 高校生ものづくりコンテスト全国大会に出場したが、入賞できなかった。	
					B	(化学工学科) 高校生ものづくりコンテスト広島県大会では優勝と2位に入賞し中国地区大会化学分析部門の出場資格を得たが2位に入賞した。	

工業分野の有識者と連携し、実践的な知識・技術・技能を身に付ける。	社会人講師を活用した授業数	6回	7回	10回	A	SET(Super Engineering Teacher)や熟練技能者による技能向上のための授業を計画どおり実施した。	工業科
	各学科が推奨する工業分野の資格を取得する。	資格取得した生徒数	100人	103人	72人	B	(機械科) 技能検定の状況 2級技能士 15/15人 3級技能士 57/73人 合計72人合格した。
機械科:技能検定(普通旋盤2・3級, 鋳造2・3級, フライス盤作業2・3級, 機械検査作業2・3級, 機械プラント製図2・3級)	87人	88人	99人	A	(電気科) 第二種受験結果75人, 第一種受験結果24人, 合計99人が合格し, 成果を得た。		
電気科:第一種・第二種電気工事士	48人	50人	56人	A	(建築科) 技能検定において, 建築大工3級30人, 2級4人, とび3級6人, 左官3級16人, 合計56人が合格した。		
建築科:建築施工管理士2級+技能検定(左官2・3級, とび2・3級, 建築大工2・3級)	5人	7人	6人	B	(土木科) 測量士補5人, 2級土木施工管理技術1人, 合計6人が合格した。		
土木科:2級土木施工管理技術検定+測量士, 測量士補 化学工学科:危険物取扱者	5人	7人	9人	A	(化学工学科) 危険物取扱者甲種2人合格, 乙種7人, 合計9人が合格した。		

《各種資格・検定試験の受験者数・合格率の向上を図り、ジュニアマイスター認定者数を52人以上とする》

【評価結果の分析】

(1) 成果

- ジュニアマイスター顕彰については、前期にゴールド、シルバー合わせて23人、後期に23人、合計46人が認定された。
- 学年会では、学年通信を通じて、各資格・検定試験の日程一覧表や受験者数を毎月紹介し、生徒、保護者に受験意欲の喚起を図った。

(2) 課題

- 今年度の認定者数は、昨年度よりも若干減少した。
- ジュニアマイスター認定に向け、各自の意識をさらに高め、クラス・学年で機運を高めていかなければならない。
- ジュニアマイスター認定者数は、学科により差が大きい。

【今後の改善方策】

- 来年度に向け、各学科で取得できる資格・検定の試験日程一覧表を作成し、年度当初には案内する。
- 学年会では各生徒の合格状況やジュニアマイスターの得点を把握し、生徒に伝えることにより、ジュニアマイスター認定を啓発する。
- 資格・検定取得者数の少ない学科については、SHRや授業を通して卒業までに資格等取得にチャレンジするよう啓発していく。

《ものづくりコンテストでの入賞・優勝を目指す》

【評価結果の分析】

(1) 成果

- 8月に若年者ものづくり競技会 職種建築大工に中国地区代表として出場し、銀賞(2位)に入賞したが、11月には高校生ものづくりコンテスト 木材加工部門全国大会にも出場し、見事優勝を果たした。
- 若年者ものづくり競技会 職種旋盤作業に中国地区代表として出場し、参加者32名中、銅賞(3位)に入賞した。フライス盤作業には初参加した。
- 高校生ものづくりコンテスト 測量部門中国地区大会では3年連続で優勝し、全国大会に出場した。
- 全日本ロボット相撲大会中国大会高校生の部ラジコン型に出場し、優勝、準優勝し、全国大会に出場した。
- ジャパンマイコンカーラリー2017中国地区大会アドバンス部門に出場し、優秀な成績で、全国大会に出場した。
- 第10回コンクリート甲子園予選会を勝ち抜き、本大会(全国大会)に初出場を果たした。

(2)課題

- 来年度、高校生ものづくりコンテスト全国大会は広島で開催される。出場はもちろん、上位入賞に向け、生徒を指導していく必要がある。
- 中国大会や全国大会へ出場するには、レベルの高い徹底した指導体制が必要であるが、学科の全教職員が指導できないのが現状である。

【今後の改善方策】

- 来年度に向け、全部門において、例年よりも早く、今年度から計画的に選手候補生徒を育成していく。
- 出場する選手の技術・技能は年々向上しており、簡単に上位に入ることが難しくなっている。加工及び作業の精度を上げるとともに、スピードアップも図るなど、すべての面で質の高い練習を実施する。
- 社会人外部講師であるSETを活用し生徒の技術力向上に取り組むとともに、その指導方法を学び、教職員の指導力向上にもつなげる。

《実践的な知識・技術・技能を身に付ける》

【評価結果の分析】

(1)成果

- SETには、授業や放課後において、広島県版技能検定、国家技能検定対策について、生徒に指導していただいた。
- SET、工業組合・企業の熟練技能者の指導により、生徒の知識や技術・技能が向上し、資格・検定取得につながった。
- 学科によっては、SETを講師とした、教職員対象の技能講習会を実施していただいた。教職員はこの講習会を通じて技能検定に合格した。

(2)課題

- 生徒の技能向上には、SET等だけに指導を任せるとはならず、本来指導する教職員自身がスキルアップしていくことが必要である。

【今後の改善方策】

- 教職員自身が、資格や技能検定の取得や、各種技能に係る研修会への参加により、技術・技能の指導力を高め、SET と協力して生徒の技術・技能の育成に取り組む。
- 教職員が、SET、工業組合・企業の熟練技能者が生徒を指導している授業や放課後指導の様子を参観し、自身の技能向上に資する。
- 来年度も、SET、工業組合・企業の熟練技能者を講師として、教職員技能向上研修会を実施いただき、教職員への技能の伝承に取り組む。

《各学科が推奨する工業分野の資格を取得する》

【評価結果の分析】

(1)成果

学 科	学科が推奨し合格した資格・検定	合格人数
機械科	2級技能士旋盤作業 (6/6), 2級技能士フライス盤作業(2/2), 2級技能士鋳造作業 (4/4), 2級機械検査(3/3), 3級技能士旋盤作業(13/17), 3級技能士フライス盤(6/7), 3級技能士鋳造(19/20), 3級技能士機械検査(17/27), 3級機械プラント製図(2/2)	72人
電気科	第2種電気工事士(合格75人/87人 : 上期合格71人/81人: 下期合格4人/6人) 第1種電気工事士(合格24人/57人)	99人
建築科	建築大工3級30人(受検31人), 建築大工2級4人(受検5人), とび3級6人(受検6人), 左官3級16人(受検16人)	56人
土木科	測量士補 5人(受験10人), 2級土木施工管理技術検定1人(受験17人)	6人
化学工学科	危険物取扱者 甲種2人(受験2人), 乙種7人(受験60人)	9人

(2)課題

- この合格率・合格者の増加は、教職員の指導があつての成果であるが、上級の資格取得のための指導にはさらなる教職員の指導力向上が必要である。
- 資格・検定取得が継続的な取組みになるよう、引き続き、生徒への技能検定取得のための指導及び啓発が必要である。

【今後の改善方策】

- 教職員は、技能検定等に係るセミナーに参加し、広島マイスターや熟練技能者の卓越した技術・技能を学びながら、指導力の向上を図る。
- 生徒に対し、授業等で技能向上の必要性や技能検定の優位性を積極的に伝え、意識を啓発していく。

2 選ばれる学校づくり							
入学希望者の増加を目指す。	入学者選抜Ⅰ・Ⅱ平均倍率	1.24	前年度以上	1.28	B	(総務部) オープンスクールを計画どおり4回実施した。中学校訪問は2回実施した。 (教育研究部) HPの更新は各科1回以上実施した。部活動等も適宜更新した。	総務部 教育研究部
	運動クラブ入賞・優勝数	県大会 45 中国大会 11 全国大会 6	県大会 前年以上 中国大会 前年以上 全国大会 前年以上	県大会 36 中国大会 15 全国大会 3	C	(総務部) 県大会・全国大会の入賞数が前年度を上回ることができなかった。	
	クラブ加入状況	93%	前年以上	91.5%	B	(総務部) 部活動加入率は昨年度より若干下回っているが、高水準は維持している。	

《入学希望者の増加を目指す》

＜中学生へのPR活動の実施＞

【評価結果の分析】

(1) 成果

- オープンスクールの参加申し込みについて、中学校とのやり取りをメールで行ったため、郵送よりも迅速に行うことができた。
- オープンスクールに参加した中学生のオープンスクールの内容に対する肯定度は98.4%であった。
- 入学者選抜Ⅰ・Ⅱの平均倍率は、昨年度(1.24)より1.28と若干増加した。

(2) 課題

- オープンスクールの学校紹介ビデオの内容は毎年若干の変更を加えているが、映像が古い箇所もあり、最新の内容にする必要が出てきている。本年度は、インターハイや全国総合文化祭など行事等の都合で余儀なく昨年度と異なる日程で実施した。生徒参加申込者は628人あり、ほぼ昨年度(650人)並みであったが、当日部活動の大会や体調不良で欠席者が多く最終的に598人の参加にとどまった。
- HPの更新回数は増えたが、“中学生が見たい”と思う、Webページの更新は不十分であった。

【今後の改善方策】

- オープンスクールの学校紹介ビデオについては、ビデオを新たに撮るなど、今年度から取り組めるところは取り組んでいく。オープンスクール全体の流れをスムーズに進めるために、内容や運営方法を今後検討していく。
- 来年度オープンスクールに向け、中学校の行事等調査し、最適な日程で計画する。
- 中学校訪問については、中学校との窓口になる担当者を決め、情報提供を適宜行い、信頼関係を築く。その上で、中学校主催の高校説明会への参加や、本校出前授業の受入れを中学校に提案し、検討いただく。
- HPは全面リニューアルを図るとともに、Webページには、中学生が知りたい、見たい内容を、わかりやすく、統一した書式で更新する。

＜クラブの活性化＞

【評価結果の分析】

(1) 成果

- 部活動加入率は1年生97.8%、2年生94.3%であり、目標値を上回っている。特に1年生はクラブに加入していない者は、10人にも満たないなど、ほとんどの1年生はいずれかのクラブに加入している。

(2) 課題

- 部活動には加入はしているが、活動していない生徒もいると考えられ、そういった生徒をどうクラブに位置づけるかが課題である。

【今後の改善方策】

- 体育系・文科系の部活動に加入しない場合は工業系に加入することになっている。1年生ではこのことが浸透しているが、2年生、3年生ではこのことが徹底できていない実態がある。まず、担任・副担・部活動顧問等から、生徒にクラブ加入を促す。
- 部活動を更に活性化するため、活動が常でない生徒に対しては部活動顧問から声掛け等の指導を行う。

3 教職員の指導力向上の推進						
確かな学力を身に付けさせる授業を実施する。	授業評価アンケートの肯定的回答割合	新規	70%	73%	B	・授業評価アンケートの作成及び実施が計画より遅れた。 ・極端に悪い評価はほとんどなく、肯定的な回答が多くみられた。
主体的な学びを取り入れた授業を推進する。	主体的な学びを促す授業を実施した教員の割合	新規	85%	70%	B	教職員は考査問題から主体的な学びを促す授業を意識して授業を展開していることが伺えるが、学校全体のものになっていない。
	定期考査に思考力を問う問題を取り入れた科目の割合	新規	85%	80%	B	今年度これまで実施した定期考査には、ほぼすべて思考力を問う問題を取り入れているが、実際には知識を問うような問題もあり、指導と評価の一体化を意識した授業改善が必要である。

教務部
教育研究部
教科・学科

《確かな学力を身に付けさせる授業を実施する》

【評価結果の分析】

(1) 成果

○今年度第二学期末からの調査となったため、おおよその傾向にとどまる評価となったが、極端に悪い評価はほとんどなく、肯定的な回答が多くみられた。授業評価アンケートから、今後の授業改善や主体的な学びの推進に向けて有用な調査結果が収穫できる感触が得られた。

(2) 課題

○科目「工業技術基礎」、「実習」、「課題研究」の調査ができていないため、平成29年度第一学期中間から実施できるよう教育研究部と連携し、準備を進める必要がある。

【今後の改善方策】

○年度途中の調査開始により、調査結果の分析が十分に行なえていない。よって、さらに調査を継続し、そして詳細に分析し、授業改善に生かしていきたい。

《主体的な学びを取り入れた授業を推進する》

【評価結果の分析】

(1) 成果

○今年度これまで実施した定期考査には、ほぼすべて思考力を問う問題を取り入れている。この結果より、教職員は、主体的な学びを促す授業の実践の必要性を意識していることが伺える。

○第二学期において、“主体的な学びを促す授業づくり”をテーマに実施した公開研究授業では、大変参考になる授業を展開し、全教員にとって今後の授業実践の一助となるものが提供できた。

○今年度は、学校全体で生徒に付けさせたい資質・能力を決め、教育課程第一学年設置科目について、年間評価計画と単元指導計画の試作版が年度末に完成し、先行して2教科について授業を実践した。

(2) 課題

○定期考査において、ほとんど科目で思考力を問う問題を取り入れている結果が得られ、ほぼ全教員が主体的な学びを促す授業を意識していることが伺えた。しかし、考査問題の点検では、知識を問う問題に近いものもあり、授業の展開をはじめ、指導方法や評価など、これまでの授業実践を振り返り、改善が必要である。

【今後の改善方策】

○平成29年度は、すべての教科において単元指導計画をもとに実践し、生徒に付けさせたい資質・能力を、どのようにして付けさせたらよいか、また、どのように指導し評価したらよいか、その実践には何を準備すべきかなど、課題を明確にし、授業改善を行う。

○課題の解消に向け、学校全体で“主体的な学び”が推進できるよう研修を重ね、その実践に取り組む。「見る」⇒「やってみる」⇒「振り返る」⇒「修正する」⇒「やってみる」といった一連の活動を念頭に置いた研究授業を計画し、生徒に主体的な学びを促す授業を実施する。

4 安全・安心・清潔な学校づくり							
安全で清潔な学習環境をつくる。	大掃除実施数	12回	12回	12回	A	計画通り実施した。来校者からも校内がきれいであると評価されている。	保健厚生部
	年間1日平均遅刻件数(人/日)	1.33	1.00	1.37	B	(生徒指導部) 全体的に浸透してきているが、まだ意識が低い部分がある。 (1学年会) 1月末まで1日あたり0.59人であり、昨年度に比べ、わずかに増加した。 (2学年会) 1月末まで、1日あたり0.46人であり、昨年度より改善した。 (3学年会) 1月末まで、1日あたり0.35人であった。	生徒指導部 全学年会

《安全で清潔な学習環境をつくる》

＜美化活動の徹底＞

【評価結果の分析】

(1) 成果

○校内の美化は日常的に保たれており、オープンスクールや広工祭のアンケート結果でも“校内がきれいである”と肯定的な意見が多かった。

(2) 課題

○学校の環境・衛生・美化をさらに良くするため、教室内の整理整頓もおこなう必要がある。

【今後の改善方策】

○引き続き、校内美化活動を計画的かつ組織的に実施する。

○全クラスを定期的に点検し、教室のロッカーや傘立てなどの整理整頓を徹底して行う。

＜基本的な生活習慣の確立＞

【評価結果の分析】

(1) 成果

○登校遅刻に関して、1日あたりの件数は1.37件(人/日)と、目標値達成にはならなかった。年々減少傾向にある。今年度は、特定のクラス、生徒で複数の「通院」、「体調不良」、「寝坊」という理由での登校遅刻が目立った。(2/13までの登校遅刻数243件だが、昨年同時期よりも少ない件数である。2学期後半より登校遅刻は減少傾向にある。)

○授業遅刻に関して、前年度比+137件と増加した。登校遅刻同様減少傾向にあったが、トイレ、売店、不注意等で移動教室へ集団で遅れるというケースが増加した原因の1つでもある。(2学期後半より全体的に落ち着いてきたこともあり授業遅刻数は減少傾向にある)

○問題行動に関して、前年度比-2件減少した。

○1年生は、1月末で遅刻者数99人であった。目標換算では1日あたり0.59人であり、昨年に比べ、わずかに増加した。

○2年生は、1月末までの遅刻者数77人であった。換算すると0.46[人/日]と改善し、徐々に減少している。

○3年生の1月末までの1日あたりの遅刻者人数は0.35人(授業日168日で遅刻者数58人)であった。卒業までは、健康管理を徹底するよう指導した。

(2) 課題

○一部で、登校遅刻や授業遅刻という生活習慣や授業規律という部分を軽視している部分があり、生徒に規範意識を醸成させる必要がある。

○登校遅刻を繰り返す生徒など家庭と連携して、生活習慣の改善を図る必要がある。

○登校遅刻及び授業遅刻を減少させ、遅刻ゼロ日を増加させる。

○1年生は、年度の後半に入って、遅刻者が若干増える傾向があった。慣れを戒め、緊張感を持続させることが課題である。

○2年生は、7月が0.76[人/日]、8・9月が0.64[人/日]、1月が0.75[人/日]と、1月末までの数値0.46[人/日]に比べて高く、長期休業前後(夏季・冬季)の増加が課題である。

○3年生は、基本的な生活習慣は概ね確立できているが、体調不良による遅刻者が多かった。

【今後の改善方針】

- 生徒の規範意識の育成も必要だが、教員1人1人の生徒指導力の向上も必要であり、来年度は生徒指導に係る研修会を実施する。
- 全教職員が協力して、頭髪服装指導、校門指導、巡回指導等を組織的、計画的に実施する。
- 学年会及び生徒指導部は、生徒状況を的確に捉えるため、校内関係者(各学科・教科やクラブ顧問等)との連携や、情報の共有化を図り、組織的な指導をする。

5 生徒の進路希望を実現						
就職希望者の内定率 100%, 進学希望者の合格率 100%を達成し, 3学年生徒全員は, 進路決定後に, 卒業する。	就職試験一次合格率	94.8%	95.0%	92.2%	B (進路指導部・3学年会) 就職試験一次合格率は 92.2%となり, 目標値に届かなかった。 国公立大学に5人受験し, 3人合格した。 (1学年会) 進路実現に向け LHR で8回の指導を行った。学習状況調査の結果に基づき希望進路等について面談を実施した。 (2学年会) 進路探究について, 積極的に促した。	進路指導部 全学年
	国公立大学合格者数(人)	0人	1人	3人		
	国公立大学受験者数(人)	4人	5人	5人		

≪就職希望者の内定率 100%, 進学希望者の合格率 100%を達成する≫

【評価結果の分析】

(1) 成果

- 第1期(9月30日 採用試験)時点で、縁故・自己開拓・公務員・自営を除く就職希望者 193人中、178人の生徒が1回目の採用試験で内定し、就職希望者の内定率は 92.2%となり、高水準となった。
- 就職規模者については、1月末時点で100%内定した。とりわけ、公務員は 13人が採用(予定)となり、広島県の高校では No.1となった。
- 国公立大学進学対策として、学力試験対策及び小論文、面接等の指導を徹底して行うことにより、国公立大学3人を合格に導いた。
- 学年会では、進路についてのLHR、希望調査、学年通信による情報提供を計画的に実施するとともに、一般常識テストや小テストを行うことにより基礎学力の定着に取り組んだ。また、担任は、生徒、保護者との面談等、密に連携することにより、生徒の進路選択・決定の一助とした。

(2) 課題

- 1, 2年生の中には、進路意識が低く、将来の夢や希望、あるいは展望を持っていない生徒や、進路について保護者と十分話し合っていない生徒がいる。

【今後の改善方針】

- 来年度に向け、早期に進路希望をかためさせ、過去問・受験報告書を調べさせ、試験対策に取り組ませる。
- 進路探究に関する意識を高めさせるための情報提供や三者懇談を学年全体で計画的に取り組むとともに、個別相談、試験対策に係る指導も実施する。

平成 28 年度自己評価シート(年度末評価まとめ)

校番	81	学校名	広島工業高等学校	校長氏名	唐立 慎二	全日制	本校
----	----	-----	----------	------	-------	-----	----

1 評価結果の分析

(1) 成果

《各種資格・検定試験の受験者数・合格率の向上を図り、ジュニアマイスター認定者数を52名以上とする》

○ジュニアマイスター顕彰は、本年度46人が認定された。

○学年会では、学年通信を通じて、各資格・検定試験の日程一覧表や受験者数を毎月紹介し、生徒、保護者に受験意欲の喚起を図った。

《ものづくりコンテストでの入賞・優勝を目指す》

○8月に若年者ものづくり競技会 職種建築大工に中国地区代表として出場し、銀賞(2位)に入賞したが、11月には高校生ものづくりコンテスト 木材加工部門全国大会にも出場し、見事優勝を果たした。

○若年者ものづくり競技会職種旋盤作業に中国地区代表として出場し、参加者32名中銅賞(3位)に入賞した。フライス盤作業には初参加した。

○高校生ものづくりコンテスト測量部門中国地区大会では3年連続で優勝し、全国大会に出場した。

○全日本ロボット相撲大会中国大会高校生の部ラジコン型に出場し、優勝、準優勝し、全国大会に出場した。

○ジャパンマイコンカーラリー2017中国地区大会アドバンス部門に出場し、優秀な成績で、全国大会に出場した。

○第10回コンクリート甲子園予選会を勝ち抜き、本大会(全国大会)に初出場を果たした。

《実践的な知識・技術・技能を身に付ける》

○SETIには、授業や放課後において、広島県版技能検定、国家技能検定対策について、生徒に指導をしていただいた。

○SET、工業組合・企業の熟練技能者の指導により、生徒の知識や技術・技能が向上し、資格・検定取得につながった。

○学科によっては、SETを講師とした、教職員対象の技能講習会を実施していただいた。教職員はこの講習会を通じて技能検定に合格した。

《各学科が推奨する工業分野の資格を取得する》

○学科推奨の資格・検定取得の啓発や指導に取り組んだ結果、機械科は72人、電気科が99人、建築科56人、土木科は6人、化学工学科は9人合格した。この合格率・合格者の増加は、教職員の指導があつての成果である。

《入学希望者の増加を目指す》

＜中学生へのPR活動の実施＞

○オープンスクールに参加した中学生のオープンスクールの内容に対する肯定度は98.4%であった。

○入学者選抜Ⅰ・Ⅱの平均倍率は、昨年度(1.24)より1.28と若干増加した。

＜クラブの活性化＞

○部活動加入率は1年生97.8%、2年生94.3%であり、目標値を上回っている。特に1年生はクラブに加入していない者は、10人にも満たないなど、ほとんどの1年生はいずれかのクラブに加入している。

《確かな学力を身に付けさせる授業を実施する》

○生徒の授業評価アンケートは、73%と肯定的な回答が多くみられた。今後の授業改善や主体的な学びの推進に向けて有用な調査結果が収穫できる感触が得られた。

《主体的な学びを取り入れた授業を推進する》

○“主体的な学び”を促す授業は、教職員の70%が、通常の授業、公開研究授業において実施した。

○今年度これまで実施した定期考査には、ほぼすべて思考力を問う問題を取り入れている。この結果より、教職員は、主体的な学びを促す授業の実践の必要性を意識していることが伺える。

《安全で清潔な学習環境をつくる》

＜美化活動の徹底＞

○校内の美化は日常的に保たれており、オープンスクールや広工祭のアンケート結果でも“校内がきれいである”と肯定的な意見が多かった。

＜基本的な生活習慣の確立＞

○登校遅刻に関して、1日あたりの件数は1.37件(人/日)と、目標値達成にはならなかった。しかし、2/13までの登校遅刻数243件だが、昨年同時期よりも少ない件数で、年々減少傾向にある。

《就職希望者の内定率100%、進学希望者の合格率100%を達成する》

○第1期(9月30日採用試験)時点で、縁故・自己開拓・公務員・自営を除く就職希望者193人中、178人の生徒が1回目の採用試験で内定し、就職希望者の内定率は92.2%となり、高水準となった。

○就職規模者については、1月末時点で100%内定した。とりわけ、公務員は13人が採用(予定)となり、広島県の高校ではNo.1となった。

○国公立大学進学対策として、学力試験対策及び小論文、面接等の指導を徹底して行うことにより、国公立大学3人を合格に導いた。

(2) 課題

《各種資格・検定試験の受験者数・合格率の向上を図り、ジュニアマイスター認定者数を52人以上とする》

○ジュニアマイスター認定に向け、各自の意識をさらに高め、クラス・学年で機運を高めていかなければならない。

○ジュニアマイスター認定者数は、学科により差が大きい。

《ものづくりコンテストでの入賞・優勝を目指す》

○来年度、高校生ものづくりコンテスト全国大会は広島で開催される。出場はもちろん、上位入賞に向け、生徒を指導していく必要がある。

○中国大会や全国大会へ出場するには、レベルの高い徹底した指導体制が必要であるが、学科の全教職員が指導できないのが現状である。

《実践的な知識・技術・技能を身に付ける》

○生徒の技能向上には、SET等だけに指導を任せるのではなく、本来指導する教職員自身がスキルアップしていく必要がある。

《各学科が推奨する工業分野の資格を取得する》

○この合格率・合格者の増加は、教職員の指導があつての成果であるが、上級の資格取得のための指導にはさらなる教職員の指導力向上が必要である。

○資格・検定取得が継続的な取組みになるよう、引き続き、生徒への技能検定取得のための指導及び啓発が必要である。

《入学希望者の増加を目指す》

＜中学生へのPR活動の実施＞

○オープンスクールの学校紹介ビデオの内容は毎年若干の変更を加えているが、映像が古い箇所もあり、最新の内容にする必要が出てきている。本年度は、インターハイや全国総合文化祭など行事等の都合で余儀なく昨年度と異なる日程で実施した。生徒参加申込者は628人あり、ほぼ昨年度(650人)並みであったが、当日部活動の大会や体調不良で欠席者が多く最終的に598人の参加にとどまった。

○OHPの更新回数は増えたが、“中学生が見たい”と思う、Webページの更新は不十分であった。

＜クラブの活性化＞

○部活動には加入はしているが、活動していない生徒もいると考えられ、そういった生徒をどうクラブに位置づけるかが課題である。

《確かな学力を身に付けさせる授業を実施する》

○科目「工業技術基礎」、「実習」、「課題研究」の調査ができていないため、平成29年度第一学期中間から実施できるよう教育研究部と連携し、準備を進める必要がある。

《主体的な学びを取り入れた授業を推進する》

○定期考査において、ほとんど科目で思考力を問う問題を取り入れている結果が得られ、ほぼ全教員が主体的な学びを促す授業を意識していることが伺えた。しかし、考査問題の点検では、知識を問う問題に近いものもあり、授業の展開をはじめ、指導方法や評価など、これまでの授業実践を振り返り、改善が必要である。

《安全で清潔な学習環境をつくる》

＜美化活動の徹底＞

○学校の環境・衛生・美化をさらに良くするため、教室内の整理整頓もおこなう必要がある。

＜基本的な生活習慣の確立＞

○一部で、登校遅刻や授業遅刻という生活習慣や授業規律という部分を軽視している部分があり、生徒に規範意識を醸成させる必要がある。

○登校遅刻を繰り返す生徒など家庭と連携して、生活習慣の改善を図る必要がある。

○登校遅刻及び授業遅刻を減少させ、遅刻ゼロ日を増加させる。

《就職希望者の内定率100%、進学希望者の合格率100%を達成する》

○1、2年生の中には、進路意識が低く、将来の夢や希望、あるいは展望を持っていない生徒や、進路について保護者と十分話し合っていない生徒がいる。

2 今後の改善方策

《各種資格・検定試験の受験者数・合格率の向上を図り、ジュニアマイスター認定者数を52人以上とする》

○学年会では各生徒の合格状況やジュニアマイスターの得点を把握し、生徒に伝えることにより、ジュニアマイスター認定を啓発する。

○資格・検定取得者数の少ない学科については、SHRや授業を通して卒業までに資格等取得にチャレンジするよう啓発していく。

《ものづくりコンテストでの入賞・優勝を目指す》

○来年度に向け、全部門において、例年よりも早く、今年度から計画的に選手候補生徒を育成していく。

○出場する選手の技術・技能は年々向上しており、簡単に上位に入ることが難しくなっている。加工及び作業の精度を上げるとともに、スピードアップも図るなど、すべての面で質の高い練習を実施する。

《実践的な知識・技術・技能を身に付ける》

○教職員自身が、資格や技能検定の取得や、各種技能に係る研修会への参加により、技術・技能の指導力を高め、SETと協力して生徒の技術・技能の育成に取り組む。

- 教職員が、SET、工業組合・企業の熟練技能者が生徒を指導している授業や放課後指導の様子を参観し、自身の技能向上に資する。
- 来年度も、SET、工業組合・企業の熟練技能者を講師として、教職員技能向上研修会を実施いただき、教職員への技能の伝承に取り組む。

《各学科が推奨する工業分野の資格を取得する》

- 教職員は、技能検定等に係るセミナーに参加し、広島マイスターや熟練技能者の卓越した技術・技能を学びながら、指導力の向上を図る。
- 生徒に対し、授業等で技能向上の必要性や技能検定の優位性を積極的に伝え、意識を啓発していく。

《入学希望者の増加を目指す》

＜中学生へのPR活動の実施＞

- オープンスクールの学校紹介ビデオについては、ビデオを新たに撮るなど、今年度から取り組めるところは取り組んでいく。オープンスクール全体の流れをスムーズに進めるために、内容や運営方法を今後検討していく。
- 来年度のオープンスクールに向け、中学校の行事等調査し、最適な日程で計画する。
- 中学校訪問については、中学校との窓口になる担当者を決め、情報提供を適宜行い、信頼関係を築く。その上で、中学校主催の高校説明会への参加や、本校出前授業の受入れを中学校に提案し、検討いただく。
- OHPは全面リニューアルを図るとともに、Web ページには、中学生が知りたい、見たい内容を、わかりやすく、統一した書式で更新する。

＜クラブの活性化＞

- 体育系・文科系の部活動に加入しない場合は工業系に加入することになっている。1年生ではこのことが浸透しているが、2年生、3年生ではこのことが徹底できていない実態がある。まず、担任・副担・部活動顧問等から、生徒にクラブ加入を促す。
- 部活動を更に活性化するため、活動が常でない生徒に対しては部活動顧問から声掛け等の指導を行う。

《確かな学力を身に付けさせる授業を実施する》

- 年度途中の調査開始により、調査結果の分析が十分に行なえていない。よって、さらに調査を継続し、そして詳細に分析し、授業改善に生かしていきたい。

《主体的な学びを取り入れた授業を推進する》

- 平成 29 年度は、すべての教科において単元指導計画をもとに実践し、生徒に付けさせたい資質・能力を、どのようにして付けさせたらよいか、また、どのように指導し評価したらよいか、その実践には何を準備すべきかなど、課題を明確にし、授業改善を行う。
- 課題の解消に向け、学校全体で“主体的な学び”が推進できるよう研修を重ね、その実践に取り組む。「見る」⇒「やってみる」⇒「振り返る」⇒「修正する」⇒「やってみる」といった一連の活動を念頭に置いた研究授業を計画し、生徒に主体的な学びを促す授業を実施する。

《安全で清潔な学習環境をつくる》

＜美化活動の徹底＞

- 引き続き、校内美化活動を計画的かつ組織的に実施する。
- 全クラスを定期的に点検し、教室のロッカーや傘立てなどの整理整頓を徹底して行う。

＜基本的な生活習慣の確立＞

- 生徒の規範意識の育成も必要だが、教員1人1人の生徒指導力の向上も必要であり、来年度は生徒指導に係る研修会を実施する。
- 全教職員が協力して、頭髪服装指導、校門指導、巡回指導等を組織的、計画的に実施する。
- 学年会及び生徒指導部は、生徒状況を的確に捉えるため、校内関係者(各学科・教科やクラブ顧問等)との連携や、情報の共有化を図り、組織的な指導をする。

《就職希望者の内定率 100%、進学希望者の合格率 100%を達成する》

- 来年度に向け、早期に進路希望をかためさせ、過去問・受験報告書を調べさせ、試験対策に取り組ませる。
- 進路探究に関する意識を高めさせるための情報提供や三者懇談を学年全体で計画的に取り組むとともに、個別相談、試験対策に係る指導も実施する。

3 学校関係者評価結果を踏まえた今後の改善方策(学校関係者評価実施後に記入する。)

- 学校関係者評価では、目標設定、取組み、そのたての分析等、すべての評価項目について適切であると評価された。次年度は3カ年計画の2年目の年であり、今年度の課題をしっかりと整理し、その改善方策に取り組む。

平成 28 年度学校関係者評価シート(年度末評価)

平成 29 年3月 31 日

校番	81	学校名	広島工業高等学校	校長氏名	唐立 慎二	Ⓐ・定・通	Ⓐ・分
----	----	-----	----------	------	-------	-------	-----

評価項目	評価	理 由・意 見
目標, 指標, 計画等の設定の適切さ	A	<ul style="list-style-type: none"> ・前年度実績より少し高い目標値を設定している。 ・項目ごとに, 現状, 課題, 対策がわかり易く設定されている。
目標の達成状況の評価の適切さ	A	<ul style="list-style-type: none"> ・目標値より実績値が高い項目は A, 80%程度は B, それ以下は C としていて適切である。 ・資格取得合格率と合格者が増加している。
目標達成に向けた取組の適切さ	A	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの項目の目標達成に向けた取組みは適切である。 ・教職員自らがスキルアップをして生徒の意欲を高めておられる。
評価結果の分析の適切さ	A	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの項目の分析をしっかりと行っている。成果及び課題を把握されている。 ・自己評価シートの評価理由と評価点が客観的である。
今後の改善方策の適切さ	A	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの項目について今後の改善方策がしっかりなされている。 ・生徒の実態に即した改善方策となっている。 ・改善方策についてはもう少し工夫, 努力が必要なのではないのか。
総合評価	A	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的にしっかりと取り組んでいる。 ・たえず生徒が学力向上のため教職員が努力されている。